

学校だより

プラタナス



令和3年7月20日(火)

市川市立市川小学校
No.14 校長 蜂須賀 久幸

<https://ichikawa-school.ed.jp/ichikawa-sho>

本校児童の傾向として、市内のデータと比較してみると…

下のデータは、「第3期市川市教育振興基本計画の施策の評価に係る調査結果」について、市教委がまとめたもので、令和2年度の小学6年生と中学3年生を対象に実施したアンケートに基づいています。結果にみられる傾向を意識しながら指導改善に役立てたいと考えます。

市内小学校と比較して5ポイント以上の下回る項目は、配慮や手立てが必要です。特に設問3は本校が重点目標として掲げる「自己肯定感」「自己有用感」そのものです。また、設問18からは、指導の工夫・改善を図る必要性を感じます。一方で、単なる数値の比較に終始することなく、結果の背景と目の前の子どもの思いを汲んでどのように対応するか、学校と家庭とで方向性を共有して連携を図ることこそが重要だと考えます。人の話を聴くことを愉しみ、自分の頭で受け止めて自分の言葉で伝え応用できる、そんな自分を客観的に評価できるまで育てたいと思います。

設 問	市川小		市内小学校		市内小中学校	
	あてはまる	どちらかという とあてはまる	あてはまる	どちらかという とあてはまる	あてはまる	どちらかという とあてはまる
1 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。	▲33%	56%	55%	39%	61%	34%
2 友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができる。	▲36%	48%	42%	49%	49%	43%
3 自分には、良いところがあると思う。	▲27%	40%	32%	43%	32%	44%
4 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	75%	19%	79%	16%	80%	16%
5 読書が好き。	41%	○41%	41%	30%	41%	30%
6 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている。	▲21%	50%	28%	51%	27%	52%
7 家で、自分で計画を立てて勉強している。	29%	34%	26%	37%	23%	38%
8 コンピュータやインターネットなどを活用した学習に取り組んでいる。	▲32%	29%	40%	31%	33%	32%
9 パソコンや携帯電話などの安全な使い方がわかり、自分を守り他人に迷惑をかけないように気をつけている。	▲62%	32%	74%	23%	75%	22%
10 家の人(兄弟姉妹を除く)と将来のことについて話すことがある。	▲15%	42%	20%	39%	24%	41%
11 将来の夢や目標を持っている。	55%	25%	56%	27%	51%	28%
12 人の役に立つ人間になりたいと思う。	▲59%	34%	69%	26%	70%	25%
13 将来、外国に留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思う。	○33%	21%	16%	22%	18%	22%
14 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	26%	47%	29%	47%	27%	48%
15 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。	○26%	32%	19%	43%	17%	40%
16 先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う。	36%	▲36%	36%	45%	39%	45%
17 朝は主食とおかず(主菜・副菜)がそろった食事をしている。	▲45%	41%	53%	40%	52%	39%
18 学校の勉強は楽しい。	▲15%	52%	31%	46%	29%	46%

感性豊かな児童の作品の数々！

国語の学習で俳句や川柳を学んで、五七五の17音で思いを詠んだ3年生。素直でダイレクトな言葉の中に思いを感じ、面白さも伝わりました。4年生の体育「マット運動」では、基本的な一人技をグループで組み合わせて、体全体で表現を楽しむ姿は、まるでシンクロナイズドスイミングや新体操の団体演技を見るかのようでした。これだって一つの作品です。成長を続ける子供たちの姿が、随所で見られた1学期でした。

以前、6年生の随筆を紹介しましたが、廊下で再度読んでみると表現は拙くても、見方や考え方に感心させられたり、ユニークだったりする数々の作品に出会い、改めて下に紹介します。

明日から夏季休業。学年を問わず、自分の考えを作文などにまとめて夏休み明けに持ってきてくれたら、校長室前に掲示します。スペースがなくなるくらい集まったらどうしよう…!?



雨はヒーロー 6年 K.S



みなさんは雨に対してどのようなイメージがあるだろうか。ぼくは、「勇気をくれる」と思っている。

前、雨が降ってきた。傘を持っていなかったので、家まで大急ぎで走っていった。しかし、雨がとても気持ちよく感じた。だから、歩いて帰っていった。家に着いてお母さんに、「ビショビショじゃん」と言われた。ふと体を見ると、びしょぬれだった。でもとても気持ちよかった。なんでだろうと思いながら寝た。そして、次の日にまた雨が降ってきた。「やった」と思いながら、うれしくなって雨に濡れた。しかし、全然気持ちよくなかった。急いで傘に入って歩き出した。「なんで気持ちよくなかったんだろう」と思った。そして、気がついた。昨日は、水泳でとても疲れていた。そうしたら、雨が涼しくしてくれた。そして、また挑戦する勇気を与えてくれた。しかし、今日はこれといったことがなくて、ボケーっとしていたから何も感じなかったのだと分かった。雨は、気持ちによって敵にもなるし、味方にもなる。そして、雨が味方になると勇気や気力を与えてくれる。雨から勇気をたくさんもらったから、とても勇気が出て挑戦しようと思ったのか。しかし、今日はボケーっとしていたから、雨が敵になってしまった。昨日は、霧雨だったからかとても涼しくて気持ちよく感じたのか。雨は、量と気持ちで変わる。

このように、雨を味方につけると勇気をたくさん与えてくれる。まさにヒーローだ。しかし、敵にしまうと、勇気をどんどんなくしてしまう、とっても手強い敵だ。要するに、雨が気持ちよいかどうかは自分自身の気持ちで決まる。

不可能？困難？面倒？ 6年 F.K

先生に「テストで満点をとれるように」と言われたとき、心の中でどう思っているかは知らないが、「えー、ムリ」だとか「それはムリ」だとかいう言葉をよく耳にする。試しに僕の周り5、6人にテストで確実に満点をとれるか聞いたところ、「ムリ」以外の答えは出てこなかった。

“ムリ”って何だろう。なぜここでムリという言葉を使うのだろう。困難だから？面倒だから？それとも本当に不可能だと思っているのか？だとしたら、不可能だと思うのは少しもったいないと僕は思うのだ。

僕は、「ハイキュー!!」というマンガを何回も読んでいるが、ふと目にとまった言葉がある。天然で明るくとても強いエースが、冷静なセッターに「全部決めて全部勝つのは無理だ」と言われたときに、「ムリではなく“ムズカシイ”である」と、めずらしく論破したのだ。僕はとても納得した。そうだ、確かにテストで満点を必ずとることは難しいかもしれないが、あくまで“ムズカシイ”であって、“ムリ”と、できることを勝手にできないと言ってはダメだ。それが“ムリ”のもったいない部分である。それから僕は、“ムリ”と考えることは少なくなったと思う。

困難だとか面倒だとか考えている人ならば、あえて“ムリ”と言わないほうがいいだろう。「病は気から」という言葉があるが、それに付け足して「気は心から」ならぬ「気は言葉から」もアリだと思う。自分で口に出していってしまうと、本当にそんな風に思えてくる。

“ムリ”と考えず、“ムズカシイ”と考えるだけでもモチベーションも上がるし、頑張った分、あきらめた人より結果が出る。僕は、何より不可能を勝手に増やすほどもったいないことはないと思う。

みなさんも是非、“ムリ”ではなく“ムズカシイ”と考える習慣を身につけてください。色々なことに挑戦すると、楽しい日々が送れると思う。



本物のあいさつ 6年 T.K

朝色のカーテンからもれる光。ひんやりした机の上。教室中に響くチャイムの音。ほわほわとにおう給食のにおいと共に日直の声が広がる。

「気をつけー、礼！」

「ありがとうございました！」

この場合は、勉強を教えてくれてありがとうという意味だ。しかし、勉強を聞いている側はありがたいと感じているのか。そもそも『本物のあいさつ』とは何なのか。実際に辞典で「あいさつ」を調べると、「人に会ったり別れたりするときに言う言葉」と書いてあるが、私は違う。今からそれについて考えていきたい。

英語の授業もバリバリあいさつである。アメリカだったらハロー。中国ではニーハオ。外国のあいさつを知ることで世界との交流が深まるのである。

最近あったことといえば、あいさつをしたのに返事がこなかったことだ。誰もが経験したことがあるだろう。あいさつには、お互いが良い気持ちになるというメリットがあるが、ついサボってしまう。これは『あいさつのなまけ』が原因だ。『あいさつのなまけ』は人を消極的にし、さらに相手にも不信感があらわれて「超」ネガティブになってしまうのだ。

つまり、私が言いたいのは、ネガティブになりすぎてしまう原因の『あいさつのなまけ』を退治すべきということだ。

『あいさつのなまけ』は誰にでもある。ネガティブになりすぎる以前に言葉や行動が雑になったりもする。したがって、『あいさつのなまけ』が全くなく、その潔白さを言葉に表すもの。それが私の思う『本物のあいさつ』なのだ。



赤ちゃんポストについて 6年 I.M



貴方は、赤ちゃんポストにどんな考えを持っているのだろうか？赤ちゃんポストとは、親が育てられない子どもを匿名で預かるため設けられ、子ども達を受け入れた新たな家庭では、親も子どもも預けられた生い立ちに向かい合っている。

次に、このような悲しい事実もある。西日本で暮らす女性が 3 人の子育てが一段落していたので、戸籍上親になる特別養子縁組を希望した。乳児院で面会した男の子が生後10か月の時だった。2週間ほど一緒にいるとひざの上に乗るようになり、小学生になって友達とボール遊びや鬼ごっこでたくさん遊び回って、ご飯もモリモリ食べる。そこで初めて生い立ちを話した。それを聞いた男の子は「おれ、なんで捨てられたの？要らなかったの？要らなかったんでしょ？」女性は言った。「どうしてもあなたの命を助けたいと思ったの」

この記事から私は、赤ちゃんポストにはメリットもデメリットもあると思った。メリットは、捨てられた赤ちゃんの命を救うことができ、新たな家庭を築くことができるということだ。逆にデメリットは、命を救うことはできるけど体を救うことはできても心を救うことはできていないということだ。救えていない心をいやして救うことも、赤ちゃんポストの役目なんじゃないかと思う。そして、まず赤ちゃんが捨てられない世界を作るのも大切。やはり、私にとって赤ちゃんポストは赤ちゃんを救う重要な施設だと思う。

サンタクロースのいる街 6年 I.T

「サンタクロースはいない」

ある日、いきなり祖母に言われた。もちろん僕は反発した。いないのならば、クリスマスを楽しみに待つことができなくなってしまうからだ。

これは、ユーモアのある考え方ができるかどうかで変わることであると思う。

例えば、節分で豆をまくときは、「鬼は外、福は内」と言うだろう。これも同じで、自分達にかかる災いは鬼や妖怪が起こし、何か良いことは神様や仏様のおかげということを考えていたので生まれた行事の一つである。他には、おとぎ話なども昔の人がユーモアをもって描いた作品であるだろう。

このように、普段から親しんでいたりする作品や行事は、昔の人がユーモアを持った生き方をしていたから生まれたものだと思う。

僕は、昔の人の生き方や考え方は大切だと思う。なぜなら、サンタクロースがいなかったとしても、実際にいるのではないかと考えなければ毎日を楽しみと思って生きられないからだ。

なので、僕はサンタクロースがいる所でなければ生きることができなくなってしまう。



※ほぼ原文のまま掲載していますが、読点や文字、文末表現など多少修正しています。ご了承ください。

コロナ禍の林間学校はこんな感じでした

先週15日（木）から一泊で、河口湖方面への林間学校に5年生が行ってきました。感染症予防に引率職員だけでなく、児童自らもきちんと努めることができた2日間でした。集団での宿泊学習だからこそできる活動満載で有意義に過ごせました。ただ、今月いっぱいには感染者が出ないことを願うばかりです。

1日目の昼食後から、インストラクターがついてグラススキー・マウンテンバイク・マウンテンボード・カヌー・酪農体験という5コースに分かれて、選択体験活動を行いました。曇り空から時折雨が落ちてきます。でも本栖湖のカヌーは青空。そして、夕食後はキャンプファイヤーです。消灯後は、おしゃべりを楽しむ状況ではないので、活動の疲れも出てぐっすり眠れたようです。

2日目は、朝食前に湖畔の散策をして、メイン活動は樹海のガイドウォーク。壮大な自然を目の当たりにできました。涼しかった樹海から昼食場所の甲府に到着したとき、ものすごい暑さに出迎えてもらいました。

制限が多い中でしたが、どんな思い出ができたのか、夏休み明けに作文など見せてもらうことにします。活動の様子を写真で振り返ります。修学旅行も実施できる状況であることを今から祈る気持ちです。



食事はどこでも向かい合うことなく、マスクを外している最中は会話なし。ホテルでは、お替りの際、自分が立って動くことをせず、手を挙げると係の方が来てくれ、新しい茶碗に交換するなど徹底対応。



左：一晩過ごしたホテル。

下：キャンプファイヤーは、実行委員を中心に楽しみました。直接手を繋がないために軍手を着用です。



笠が赤い珍しいキノコ発見！
本土リスの親子にも会えました

